

■H30.11.5 市長定例記者会見内容

日時 平成30年11月5日(月)午前11時～

場所 庁議室

出席 市長、副市長、危機管理監、総務部長、企画部長、地域創生部長、建設部長、企画調整課長、商工港湾課長、建築課長、市長公室長
酒田記者クラブ 6社(山形新聞、荘内日報、読売新聞、毎日新聞、河北新報、NHK)

■内容

1. 酒田市新田産業奨励賞授賞式・記念講演会の開催

例年産業界で頑張っている方を激励の意味で表彰している本年度の新田産業奨励賞について、今回は企業2社の表彰。

1社はケイテック株式会社で、平成22年にLPガスとガソリンの両方を燃料とするLPGハイブリッド車の開発を通して燃料費削減と環境負荷を軽減し、また災害時には同社所有施設を提供する協定を本市と昨年締結し、市民の安全安心にも貢献している。

1社は、有限会社たんばや製菓。同社はカステラやどら焼きを主力商品にした菓子製造業であるが、平成25年に本社工場を庄内町から本市飛鳥に移転し、人材育成への注力により高い技術力の継承に努め安定した雇用を確保し、また地元産の安全で安心できる商品開発と県外の販路開拓により地域経済へも貢献している。

授賞式は11月22日(木)午前11時からガーデンパレスみずほで行う。合わせて記念講演会を同日の午後に公益ホールで開催する。講演会では、寺島実郎氏の講演を中心とした講演会を実施している。寺島さんは客員教授でテレビ露出もある有名な方。近年毎回講演いただいている。第2部として佐高信さんとの対談も予定している。

記者／毎年市民表彰と同時発表だったと思う。遅れた理由は？

市長／表彰式の日程の関係でずれ込んだのと、市民表彰は決まり次第お知らせしたい気持ちから少し発表を早めており、時期がずれた。

2. 酒田交流おもてなし市民会議「さかた観光交流マイスター」の認定について

このたび、酒田交流おもてなし市民会議では、酒田市の観光・交流、PRに貢献のある伝統文化、芸能等の団体・個人を認定する「さかた観光交流マイスター」制度を設けた。この制度は、今年度から新たに設けたもので、おもてなし市民会議の会員の皆様から候補を推薦していただき、市民会議の企画運営部会(会員9名で組織)での検討を経て、決定するもの。

さかた観光交流マイスター認定第1号は、おもてなし市民会議会員の推薦により、株式会社平田牧場 舞娘茶屋相馬樓の「酒田舞娘」と決定した。

株式会社平田牧場の酒田舞娘は、酒田市の花柳界が衰退し、舞娘という文化を継承することが困難になってきていた中、平成2年に「酒田舞娘」として復活。平成12年から相馬樓を拠点として酒田市の料亭文化を今に伝える役割とともに酒田の観光PRを担っている。現在では酒田市の観光のシンボリックな存在として国際交流の数々の場面やクルーズ船寄港時のおもてなしなどで活躍していただいている。この度、観光交流マスターの第1号として広く周知し、更に活躍の場を広げていただくために決定した。

酒田の料亭文化を現代に残し伝えていく存在は大変重要。今年からプレイメントを行っている、新潟・庄内デスティネーションキャンペーンでは「日本海美食旅（ガストロノミー）」がテーマとなっており、「酒田フレンチ」と「北前船・料亭料理」が広く周知されるための各種PRを予定している。そういった場面や東京で開催されるANAマルシェ、吉祥寺でのイベントなどでも酒田舞娘が活躍してくれることを期待しており、費用負担も含め、様々な場面で活躍する機会を作っていきたいと考えている。

なお、認定証は地元産の酒田杉を使用したもので、現在製作中。認定証の授与の日程や場所については後日プレスリリースする予定。

記者／費用負担とは、今年度の活動から？

市長／認定した後から。市主催、また全市的なイベントについても主催者団体と相談し、舞娘に出してもらう費用は負担していきたい。

地域創生部長／費用負担は市からではなく、おもてなし市民会議から助成する。

記者／マスターに認定された場合、費用負担以外のメリットは？

市長／この制度創設の理由は、観光交流に活躍している民間が維持する組織を内外にアピールし、やりがい・プライドを持って継承して欲しいというもの。

記者／「酒田舞娘」の認定は団体になるのか？個人になるのか？

市長／地方（じかた）も含めて団体としてになると思う。現在の人数としては地方2人、舞娘5人の計7人。

記者／認定を決定したおもてなし市民会議企画運営部会長は誰か？

市長／商工会議所の白崎好行専務。

記者／2号以降の認定の想定はあるのか。

市長／北前太鼓や獅子舞、花魁道中、出羽人形芝居、傘福を作っている人たちなど結構いろいろ候補はあると思う。公な認定があると売り込みやすいと思うのでそこに期待している。そういう身銭をきって頑張っている方を応援したいと思っている。

記者／今回認定される相手方の正式名称は？

市長／「酒田舞娘」に対してとなる。今後は団体名や伝統芸名などいろんなパターンが出てくると思う。

◎フリー質問

【市庁舎の免震オイルダンパーについて】

記者／KYB 株式会社およびカヤバシステムマシナリー株式会社が製造した「免震・制震オイルダンパー」について、国土交通省大臣認定等への不適合な「免震オイルダンパー」と同様の製品が、酒田市庁舎に使用されていることが確認されたが、今後の対応と市長の考えは？

市長／信頼を裏切る行為で、大変遺憾に思う。特に災害時に拠点となる市役所は、市民に建てていただいたと思っているので、その土台がきちんと検査されていなかったことに対して憤りを感じるとともに市民に対しては申し訳ない思い。性能が維持できるものに交換してもらいたいと思う。今後はメーカーの説明を聞きながら対処したいが、いつ災害が起きるかわからないので企業の責任としていち早く対処してもらいたい。実際に工事していただいた皆さんからも説明を受けたいと思っているので、早いうちに正式な説明を受けて対処を考えていきたい。

記者／現在、メーカーからの説明は？

市長／正式にはない。

記者／メーカーからの連絡は？

市長／最初に電話連絡のみあり。それが第一報だと思う。

記者／市内民間施設で使用しているところはないのか？

市長／民間で免震装置を使っているところはないと聞いている。

記者／鶴岡の消防庁舎は当該製品を使用していないのか？

危機管理監／鶴岡の消防庁舎は、一部か全体かわからないが免震は採用しているはず。ただし、当該製品を使用しているかは不明。今後整備する酒田の消防庁舎も免振構造の予定なので適切に対処していきたい。

【市長のスマートワークについて】

記者／鶴岡市の市長記者会見について、細かい質疑は事務方で対応するとして、市長は途中退席するという申し出があった。酒田市長として市長会見への考えがあれば。

市長／記者の皆さんは市がやっていることを伝えていただける有力な存在。この会見の場は、対話の場という認識があり、市民参画を促す貴重な場と思っているので、時間が許すかぎり皆さんと情報・課題を共有したい。マスコミの皆さんもまちづくりのパートナーとして、多くの方に参加してもらいしっかり記者会見をしたい。

記者／市長の働き方改革と鶴岡市長は言っているが。

市長／鶴岡市は特に面積が広いので大変だろうと思うが、市長は記者の皆さんとこういう場を持っていただこうがいいと思う。かけがえのない場なので充実を図る部分だと思う。働き方改革という観点からいうと、夜の会合を整理していけたら一番いいのではないかと思う。